

# 千住の歩き方

## 旧日光街道を中心に左右に広がる寺社を訪ねよう

この街は、旧日光街道を中心に広がってゆきました。ですから、千住をはじめてという方は、旧日光街道を中心に、周辺を攻略するというのをオススメします。

宿場町というのは、観光地とは違います。旅人が目的地の途中宿泊を目的に栄えた名残は、かすかに街中に残されています。一つ一つを訪ねて、掲示されたウンチクの看板などを読みながらぶらぶらと散歩するという前提で、駅周辺あたりから、★印をつけてみました。お時間の許す限り、沢山訪ねてくださいね。

## 文化財と石碑巡り

### 文化財が教えてくれる千住を楽しもう

千住に点在するお寺や神社のほとんどは古い建物で、たくさんの文化財も保管されています。石碑や建物(外観)など、訪ねると見ることができる品も多いです。また、文化財登録がされている建築物や、仏像などには、説明書きの看板が出ている場合が多いです。

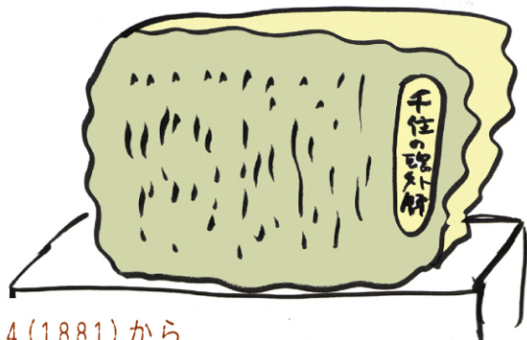
寺院に收藏されている仏像などは、公開されていないのが普通です。お閻魔像や、こて絵など、年に一度開帳日がある文化財には、日付けを明記しています。文化財を訪ねるという視点で、千住散歩を楽しんでみてください。

A

### 千住の鷗外碑

足立区 千住 1丁目30-8  
橋井堂医院跡(現足立都税事務所)

小説家・森鷗外の乳父静男は、明治12(1879)年に郡医として千住に転居。この地に橋井堂(きっせいどう)医院を開業。林太郎(鷗外)は明治14(1881)からベルリンに行くまでの4年を千住で過ごした。小説『カズイチカ』にこの頃の描写がある。



B

## 金蔵寺

足立区千住2-63

真言宗豊山派で、氷川山地蔵院(または閻魔院)と号す。本尊は閻魔大王で、建武2年(1335)3月の創建という。お閻魔様が、夜な夜な美女に変身し、二丁目の蕎麦屋(柏屋という噂も?)に蕎麦を食べに行ったことから、『蕎麦閻魔』の相性で呼ばれています。

- 天保餓死者の無縁塔  
天保八年(1837)の大飢饉の餓死者828人のうち、370人がこの墓に葬られたとの記載がある。
- 千住遊女供養塔  
江戸後期にもなると150軒程の飯盛り旅籠があり、飯盛り女(宿場女郎)を置いていた。貧しい農家から売られてきた宿場女郎たちは病気などで死亡すると、この金蔵寺や千住1丁目にある不動院に投げ込まれたと伝えられる。

C

## 勝専寺

通称赤門寺  
足立区千住2-11



②扁額 『三宮神山』菱潭書

③木造 千手観音立像



①お閻魔様と呼ばれ、開帳日の1月15-16、7月15-16日には、沿道に縁日が立ち賑わう。

②菱潭は、明治時代の三筆の一人。隷書では当代随一の書家

③千手観音 昔荒川から引き上げられ信仰された。千手→千住に転化し、地名が起こったという伝えがある。



①木造 閻魔(えんま)王坐像